

医療法人 虹緑会 岸田クリニック

理事長・院長：岸田 堅 先生
開設：1978年
所在地：大阪府豊中市本町5丁目6-3



集団・個別の患者教育で理解度をアップ 自己決定をベースにテーラーメイドの透析を実践

大阪府北部における透析医療の先駆けとして、開業以来40年以上にわたり地域の腎不全患者をサポートし続けている岸田クリニック。開業当初から患者それぞれの病態に応じた管理を信条とし、検査データを駆使した透析医療に取り組んできた。2代目である岸田堅理事長の時代になってからは、そうしたデータ管理により力を入れたうえで、患者が自らの病状をよく理解し、シャントや体調などを自己管理できるよう教育面を強化。患者が主体的に治療にかかわっていく治療アドヒアランス改善を後押しすることで、食事や趣味を楽しめる人が増え、生活の質向上などに大きな効果を上げている。

1. 法人の概要

大阪府北部の透析医療の老舗
現在は一般外来にも幅広く対応

岸田クリニックは1978年、岸田直博・現医療法人虹緑会会長によって設立された。岸田会長は、日本初の重症救急専門施設として大阪大学医学部附属病院に1967年に創設され、その軌跡が2002年のNHK「プロジェクトX」にも取り上げられた、特殊救急部の立ち上げメンバーで外科医だ。この特殊救急部を軌道に乗せた後、今度は北摂地域（大阪府北部）の透析医療を充実させるべく、透析中核病院の社会医療法人愛仁会井上病院のサテライトクリニックとして外来透析専門施設の岸田クリニックを開業したのである。

会長の息子である岸田堅・現医療法人虹緑会理事長兼岸田クリニック院長が同クリニックで診療するようになったのは、2012年のことである。当時は大阪大学医学部講師を続けながら非常勤医としての参加だった。正式な代替わりは2014年で、2016年には法人化した。



岸田堅 虹緑会理事長

「法人名の虹緑会には、これまでの基盤に、さらにいろいろなかたちで改革やチャレンジをし、地域医療に貢献していきたいという気持ちをこめました。父の代のクリニックのイメージカラーはグリーンで、透析に特化した医療を提供してきました。私の代では緑色から多色の虹色へ、大きく幅を広げて発展していきたいと思っています」と岸田理事長が語る。

岸田理事長は会長の影響もあって、医師になった当初は救命救急医を目指して循環器科に進み、しばらくは心臓カテーテル手術などに専門的に取り組んでいた。しかし、メタボリックシンドロームの提唱者として知られる松澤佑次先生の研究室に所属した縁で、糖尿病をはじめとした生活習慣病の研究や診療を数多く手がけるようになった。現在までに日本内科学会専門医、日本循環器学会専門医、日本糖尿病学会専門医、日本動脈硬化学会専門医を取得している。

現在はこうした豊富な経験を生かし、透析のみならず、腎臓病・糖尿病・内分泌・代謝内科（甲状腺疾患）・循環器疾患・